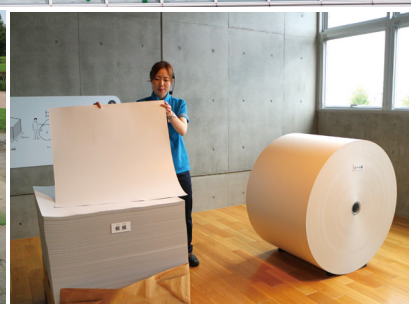
工場はここだけ！ショウワノート高岡本社工場を見学

ジャポニカ学習帳の秘密を大公開



（写真左）タイムトンネルを見学する子どもたち
（写真右上）ドラえもんが工場の目印
（写真中央下）工場の隣にあるおとぎの森公園にある等身大ドラえもん像
（写真右下）板紙とロール紙

富山県高岡市にある協賛会社のショウワノート（ベルマーク番号 53）の本社工場を９月に訪問しました。創業 70 周年の記念事業として今年５月に完成した新工場では、1970 年の発売以来愛され続けているジャポニカ学習帳の製造ラインを見学することができます。

◇　◇

高岡駅から車で 10 分、遠くに大きなドラえもんが見えてきました。作者の藤子・F・不二雄氏が富山県出身なことにちなみ、前工場時代から壁にドラえもんが描かれていました。工場のある北陸新幹線沿線は条例で屋外広告物が規制されましたが、近隣住民の残したいという熱い要望が伝わり、ガラス面の内側に絵を入れる方法で残ったそうです。

同社の工場はここですべての製品を製造。ジャポニカ学習帳だけで１日４万～４万５千冊も製本します。約 60 人が勤務し、繁忙期は 24 時間稼働する場合もあるそうです。企画部東京販売企画の原田英彦さんと、事業戦略室産業観光課副主任の山本飛鳥さんに案内していただきました。

◇　◇

はじめに、工場の成り立ちやノートの工程をビデオで学びます。ジャポニカ学習帳は書いたり消したりしやすいよう頑丈に加工された特注の紙を使い、罫も目が疲れにくい色だそうです。

ジャポニカ学習帳といえば昆虫や花が目を引く表紙ですが、これは 1978 年の「世界特写シリーズ」開始以来、すべて昆虫植物写真家の山口進さんが撮影しています。写真一枚一枚に、子どもたちに自然を愛する心を育んでもらいたいという願いがこめられています。

◇　◇

製造ラインでは、まずノートのもとになる「原紙」を間近で観察。ロール紙と板紙の２種類があり、ロール紙は直径 1m27cm、重さ 700kg と、すごい迫力です。伸ばすと長さ 13km にも。「これひとつでノート 7200 冊分です。1 時間に 1 本は消費するんですよ」と山本さん。

その紙に水性インクでオフセット印刷します。シアン、マゼンダ、イエロー、ブラックの基本色と「特色」のグリーンを用いて 1 分間に最大 130 枚印刷します。ノートの形に裁断したら真ん中を糸綴じ製本して完成。強度の強い「二重かがり綴じ」です。

◇　◇

製品は 20 冊ごとに抜き取り検査をし、10 冊ずつに分けて包装します。手の感覚だけで 10 冊がわかる熟練した社員も多いそうです。最後に 160 冊ずつ段ボールに詰めていきます。切れ端など紙片はすべて、工場内に張り巡らされているパイプで掃除機のように吸い上げ、裁落室（さいらくしつ）に集められて新聞や包装紙などにリサイクルされます。

工場内には学習帳の歴史やこだわりを示した展示コーナーも。見学者に大人気なのは「タイムトンネル」で、学習帳の表紙 611 枚が壁や天井に所狭しと使われて圧巻です。「年に 160 種類もの絵柄を発売しており、全部で 2000 種類以上あるので、これでもごく一部なんですよ」と原田さん。

◇　◇

他にキャラクターグッズの POMMOP（ポンモップ）シリーズ、大相撲で同社が出した懸賞幕なども見る事ができます。見学は、県内の小中学生のほかにメーカーや地元の商工会議所などからも申し込みがあるそうです。原田さんは、「まだ始まったばかりですが、工場見学が県の観光名所の一つになれるよう盛り上げていきたい」と意気込みを語っています。

◇　◇

ショウワノート高岡工場の見学の詳細は同社ＨＰをご覧ください。

ギフトショーに協賛会社が出展

クレハ、ブラザー販売

”日本最大のパーソナルギフトと生活雑貨の国際見本市”といわれる「第 86 回東京インターナショナル・ギフト・ショー秋 2018」が９月、東京ビッグサイトで開かれました。ベルマークの協賛会社もブースを出していると聞き、取材にいきました。

出店社数は海外 16 の国と地域を含めて 2,253 社。ビジネスチャンスを求めて延べ18万人が来場したという催しで、会場は多くの人でにぎわっていました。その一角に、ブラザー販売（ベルマーク番号 28）のブースがありました。

展示していたのは、業務用刺しゅうミシンやカッティングマシン、ガーメントプリンター（衣類にプリントできるプリンター）。家庭などで使われているプリンター類とはスケールが違いました。

ガーメントプリンター「GTX」のスイッチを入れると、なんと数分でＴシャツに鮮やかなプリントがあらわれます。プリントしたての生地を触っても、手にインクが付きません。カッティングマシン「スキャンカット」は、紙のみならず、布や革、キャンバス地までカットできるそうです。並べられていたフェルトは繊細な模様でなめらかにカットされていました。

東京ビッグサイトの違うホールでは「第 58 回プレミアム・インセンティブショー秋 2018」が同時開催されていました。こちらは販売促進や広報担当者を対象に、ノベルティグッズや POP などの商材を展示するイベントで、やはりベルマーク協賛会社のクレハ（ベルマーク番号 10）がブースを出していました。

そこで展示されていたのは、片手でも使える袋用クリップ「パチック」やノベルティ用商品の見本、カタログなど。「パチック」の優れているところは、電子レンジでも冷凍庫でも使えること。市販品はＳ・Ｍ・Ｌの３つのサイズがあり、用途に応じて使い分けられます。一方、カタログを見てみると、おなじみの「NEW クレラップ」と「キチントさん」シリーズの家庭用品がいっぱい。一部の商品は、贈答用に名入れやオリジナルパッケージを作ることも出来るそうです。実際にノベルティとして大人気だったという電車柄のパッケージも展示されていました。

いずれも、日々のベルマーク運動では見かけない商品の展示・実演で、各社の商品の幅広さを感じられるイベントでした。